

令和4年度 「青少年の家」不登校対策事業 第5回ふれあいキャンプ 事業報告書

担当：小俣

1 事業概要

(1) 趣 旨

不登校傾向にある児童生徒の活動意欲、コミュニケーション力、自己肯定感の向上と社会的自立を図るため、不登校の状態に応じた段階的な活動機会の提供と相談対応を行い、年間を通じた居場所を構築する。

(SDGs との関連)



4 質の高い教育をみんなに



10 人や国の不平等をなくそう



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさも守ろう



17 パートナーシップで目標を達成しよう

(2) 対 象 不登校の小中高生で、本人の参加意志のある者20名程度

(3) 実施期日 令和4年11月12日(土)～13日(日)

(4) 実施場所 大分県立香々地の青少年の家

(5) 参加者数 19名(児童生徒12名、保護者等7名)

(6) 講 師 大分大学教授 渡辺 亘 氏(スーパーバイザー)

(7) 支 援 者 大分大学学生12名

(8) プログラム

①活動1「ドローン体験」(プレイホール)

大分大学より賀川経夫教授を招聘し、ドローン体験活動を行った。説明が長くなると姿勢が崩れてしまうこともあったが、初めて見る本格的なドローンを順次操縦することができた。

活動の後半には、プログラミング体験も選択でき、参加者の興味関心に応じてプログラミングを行ったり、ドローンを操縦したりして最後まで楽しそうに過ごすことができた。

②「保護者懇談会」(談話室)

保護者・職員・アドバイザーの計8名で開催した。

仕事が終わってから参加してくださる保護者もあり、この会に是非参加したいという思いをもっている様子が伝わってくる。前回引き続き、参加した保護者の全員がこの会で懇談していただいていることから、今後も話しやすい雰囲気作りと、子どもの様子や状況、相談について丁寧に対応していく必要がある。

③活動2「自然観察万華鏡づくり」(創作室)

保護者懇談会と同じ時間帯で行った。創作室にて、メンタルフレンドとともに万華鏡づくりを行った。夜と言うこともあり、創作室の天井いっぱいにプロジェクターで万華鏡の映像を投影し、その美しさにその場にいる全員が感嘆の声を上げた。

このことからオリジナル万華鏡づくりの意欲も高まり、説明を聞くのももどかしく作り進めたがる参加者もいた。

完成した万華鏡は、自宅で花や昆虫を入れて観察することができる構造となっているため、大事そうに各自の部屋に持ち帰っていた。



賀川先生によるドローン説明



パソコンとにらめっこ
真剣にプログラミングでドローン飛行計画作成中！



持って帰ったらどこで使おうか？
必死に磨いて艶をだします

④活動3「焼き板ネームプレートづくり」（研修棟創作室）

前日夜に雨が降ったため、準備していた「森のすべり台」は設置を見送った。

場所を創作室に変更し、焼き板ネームプレート作りを行った。木目にこだわって板を選び、望みの焼き色になるように慎重に板を焼いていった。ペンでデザインを考えながら、終始集中して好みのネームプレートを作成した。

メンタルフレンドもアドバイスをしたり、一緒に作りながら評価し合ったりと、楽しみながら家で使う場面を想像したものづくり活動に取り組むことができた。

⑤のんびりタイム（レク室、プレイホール、アスレチック）

森のすべり台を行わなかったこともあり、時間的な余裕が生まれた。参加者もゆったりと時間を過ごすことができ、メンタルフレンドとともに休み休み、バドミントンをしたり、ドローンを操縦したりしながら、たっぷりと活動することができた。



のんびりタイムはゆったりと！
人気の時間

（9）事業評価

○参加者アンケート集計（回答数：10）

・プログラムについて

	内 容	楽しかった	少し楽しかった	あまり楽しなかった	楽しなかった
①	ドローン体験	9	1	0	0
②	のんびりタイム	8	2	0	0
③	万華鏡づくり	9	1	0	0
④	焼き板ネームプレートづくり	10	0	0	0

・自分の事について

	内容	できた	少しできた	あまりできなかった	できなかった
①	積極的に取り組む事ができた	5	5	0	0
②	MFと話ができた	8	2	0	0
③	キャンプを楽しむことができた	9	1	0	0
④	まわりの力をかりずに活動できた	5	5	0	0

2 成果と課題

（1）成果

- ・今回はドローンを全面にアピールしての募集であり、12名と参加者数が増加した。興味関心はもとより、複数回参加することによって、「また〇〇さんに会いたい」という理由で参加した参加者もいた。
年間をとおして実施することにより、活動をともしする中で回を重ねる毎に参加者どうしのつながりができていくことも、本事業のよい効果であるといえる。
- ・保護者懇談会の中では、ふれあい活動日を利用して、たき火やテント泊をしたいという希望が出された。ふれあいキャンプで知り合った数家庭での申込みや個別の日帰り利用も可能であることを伝え、今後の利用促進のきっかけとすることができた。
- ・今回も「のんびりタイム（自由選択活動）」での満足度が高く維持された。
- ・IKR 調査では、以下の通りの分析結果となっている。
＜質問項目別平均点比較（28項目）＞
28項目中16項目において平均点↑・・・57.1%

<生きる力全般>

「生きる力」の変容・・・・・・・・・4.1ポイント↑（有意差なし）

<生きる力3つの上位能力>

「心理社会的能力」の変容・・・・・・・・・2.4ポイント↑（有意差なし）

「徳育的能力」の変容・・・・・・・・・0.8ポイント↑（有意差なし）

「身体的能力」の変容・・・・・・・・・0.9ポイント↑（有意差なし）

- ・全体的に平均値は向上しているが、有意差は見られなかった。

(2) 課題

- ・IKR アンケートの結果から、自己肯定感が大きく伸びている様子は認められなかった。活動の中に、自己肯定感が向上するグループエンカウンターのような要素や活動を取り入れていく必要があるのではないか。